

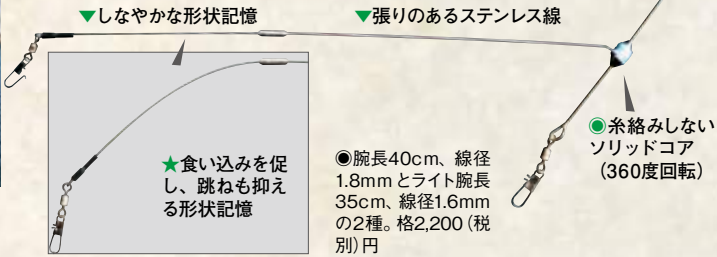
Produced by ShinobuMitsuiishi

ハイブリッド天秤三石忍プロデュース
TACHIUO / ライトTACHIUO

サニー商事より「ハイブリッド天秤TACHIUO、ハイブリッド天秤ライトTACHIUO」の2種が新発売となった。プロデュースはご存じ、タチウオ釣りの名手三石忍さんと、長年にわたる経験と実績によるタチウオ釣りに最適なテンピンのノウハウがすべて詰め込まれている。糸絡みしないソリッドコア、食いを促す360度回転のアーム、ステンレス線の張りと柔軟な形状記憶合金のハイブリッドアームによる感度と食い込みのよさ、などである。タチウオ以外にもアマダイ、コマセダイ、ライトアジなど、テンピン使用の釣りにも幅広く使用できる。発売中。



▲三石さんのアドバイスの元、2年がかりで発売にこぎ着けた製品



◎ひとたび竿を握ればテンポよく釣る三石さん

at東京湾奥金沢漁港出船

◀食い渋り日ながらピンピンとタチウオを掛ける

★タチウオ釣りと言え、この人。三石忍さんがゲスト参加



ハイブリッド天秤 TACHIUO を使い

和気あいあいとタチウオ釣りを楽しむ

☆サニーカゴ、ハイブリッド天秤など数かずの釣り用品を発売するサニー商事が、このほど創立30周年を迎え、新製品「ハイブリッド天秤 TACHIUO」の発売と合わせ、東京湾でタチウオイベントを開催した。ゲストに三石忍さんを招き、参加者は和気あいあいとタチウオ釣りを楽しんだ。



ハイブリッド天秤 最高!



◎当日は20人の参加者を集めての仕立船で行われた



★大会は釣り上げたタチウオの数で順位を決定。トップは玉井千枝さんと鈴江義典さんが18本を釣り上げ同数だったが、レディーファーストで栄冠は玉井さんの手に

このイベントが開催されたのは9月3日、乗船したのは東京湾奥金沢漁港の蒲谷丸である。スタッフからの説明と三石忍さんによる簡単なレクチャーのあと、20名の参加者に乗せた仕立船は7時半に港を離れた。

今回のイベントは新製品「ハイブリッド天秤(ライト) TACHIUO」のお披露目も兼ねている。この製品はサニー商事のテクノロジーと、タチウオ名手の三石忍さんの経験と実績の元に開発されたタチウオテンピンだ。特長は絡みにくいこと、感度がいいことなどが、それだけではないようだ。実践での使用が楽しみでもある釣りとなった。

まずは航程10分ほどの八景沖、水深15メートル前後という浅場でのスタートとなった。オモリ40号、テンピンはライトバージョンの使用である。すぐにアタリがきて、早くも船中で指3本サイズが釣れてくる。どうやらこれがレギュラーサイズで、この時期のテンピン釣りならではといえよう。

前日に比べるとはるかに食いが悪いと言っ船長だったが、各自がある程度釣ったところで、本命場所でもある猿島沖水深60メートル前後へ移動する。三石さんもここから本格的に釣り参戦である。

「タナ50メートルから上」の合図で釣り開始。ポツポツとアタリ始めるものの、サイズは指幅4本前後が中心だ。「あまり活性はよくないですね。アタリがあってもバレるし、エサだけ取られることも多いです」と三石さん。

「こんなときこそハイブリッド天秤が効果的なんです」と言いながら、タチウオがアタっている状態で竿を水平に構えた。見ていると、穂先がクンクンと上下する状態でありながら、「モタレのアタリもハッキリ出るし、柔軟な形状記憶の部分が食い込みを促します」

なるほど、これなら誘い上げの最中にくるアタリに、テンピンがいいクッションになってエサだけ取られる事態も防止できるというわけだ。この渋い状況にあっても、オデコなしの釣果はハイブリッド天秤のおかげだったかもしれない。

ドラゴンサイズも期待されたが、当日は110センチ止まり。初心者交じりにもかかわらずポツポツながら釣れ続き、70〜110センチを2〜18本の釣果で納竿の12時半を迎えた。